

九頭竜川下流地区 (国営かんがい排水事業・福井県)

—足かけ3年 じっくり育てた‘花らっきょう’—



福井県の北西部に位置する三里浜砂丘地では、整備された砂丘畑で、らっきょう栽培が盛んに行われています。(年間栽培面積35ha)

通常、らっきょうは9～10月に植え付けして翌年の5～6月頃に収穫しますが、福井県特産の「花らっきょう」は「三年子(さんねんご)」と呼ばれ、秋の植え付けから翌々年の6～7月の収穫まで、足掛け3年の栽培を行います。そのため、1年掘りと異なり、小粒で身がぎゅっと締まり繊維が細かく、シャキッとした歯切れの良いらっきょうに仕上がります。

全国トップブランドとして定着しています。

以前かららっきょう栽培の課題であった生産者や1次加工を行う切り子さんの高齢化、当地域のらっきょう生産の主要作業が6～9月の真夏における手作業主体の重労働を解消するため、三里浜特産農協と県が連携して機械化体系確立に取り組んでいます。



三里浜特産農業協同組合
TEL : 0776-82-2111

児島周辺地区 (国営かんがい排水事業・岡山県)

—晴れの国岡山の太陽と土壌が育てる千両なす—



岡山市南部の児島湾干拓地では、昭和44年から備南地区を中心に、千両なすの促成栽培が行われています。このなすは、「抜群の豊産性」と「揃い・秀品率の高さ」から、現在も栽培されています。(平成18年作付面積29ha、出荷量4,325t)

岡山県は、瀬戸内特有の温暖で降水量が少なく日照に恵まれているため、「晴れの国岡山」をキャッチフレーズとしています。本地区は、それに加えて土質が干拓地特有のミネラル分の多い重粘土であり、なす作りに

適した環境となっています。自然の恵みと、品質にこだわった昔からの卓越した技術が上手く絡み合い、千両なすは岡山県を代表するブランド野菜になっています。

しかし、近年消費が減少傾向にあることから、JA全農おかやまでは、小学校等への食育活動やスーパー等での簡単料理教室などを通じて、千両なすの栄養的価値の高さ、そのおいしさのPRをしています。



中国四国農政局農村計画部資源課
TEL : 086-224-4511 (内2563)

今号のテーマ
「わが町の特産物紹介」

いま、農村地域では、特産農産物の販売・PR・発掘を通じて、地域活性化を図っている事例が多く見られます。そんなわが町の特産物を紹介します。



馬淵川沿岸地区 (国営かんがい排水事業・岩手県)

—奥中山高原のハウス促成栽培によるアスパラガス—



岩手県二戸郡一戸町の奥中山地域では、標高の高さを活かしたレタス、キャベツなどの高冷地野菜の栽培が盛んです。近年、レタスの連作障害回避と冬場の所得確保を図るため、促成アスパラガスの栽培面積が増えました。(H19栽培面積20ha、出荷量39t)

促成アスパラガス栽培は、冬の訪れが早い奥中山地域の気象条件を活かし、霜が降りる10月下旬には場から根株を掘り取り、ハウス内の加温パイプを設置した床に伏せ込み、温度管理をすることによって、

早期に収穫できるのが特徴となっています。

産地化に取り組む「いわて奥中山農業協同組合」では、本来春先から出荷することで市場開拓を図り、現在では「いわて奥中山高原ブランド」として首都圏の市場等へ出荷しています。市場では甘みがあっておいしいと好評で、今後も作付面積の拡大を図っていく予定です。



東北農政局農村計画部資源課
TEL : 022-263-1111 (内4119)

五条吉野地区 (国営総合農地開発事業・奈良県)

—刀根早生柿のハウス栽培で長期間出荷—



奈良県中西部流下する吉野川(紀ノ川)沿いの五條市、下市町の2市町にまたがる五条吉野地域は古くから柿の栽培がおこなわれ、年間栽培面積約1,600haと全国でも有数の柿生産地です。栽培面積の割合が一番多い刀根早生(とねわせ)柿は奈良県で発見され、1980年に品種登録された品種で、味はまったりとなめらかなのが特徴です。

本地域では、事業によって用水が確保されたことでハウス栽培が導入され、これまで9月からの3ヶ月

間だった収穫期間も、ハウス栽培により7月からの約5ヶ月間となり、長期間にわたり出荷できるようになりました。

今後は、観光農業にも取り組んでいこうとしています。



近畿農政局農村計画部資源課
TEL : 075-451-9161 (内2452)